



## Diversity in Harmony : Insights from Psychology



# ICP について

日本心理学会 理事長  
東京大学大学院人文社会系研究科 教授  
佐藤隆夫 (さとう たかお)

### ICP とは

三年後、横浜で ICP2016 (International Congress of Psychology : 国際心理学会議) が開催されます。この学会は、IUPsyS (International Union of Psychological Sciences : 国際心理学連合) という世界各国を代表する心理学会の連合体と、ホストとして選ばれた開催国を代表する学会 (日本では日本心理学会) が共同で四年ごとに開催するもので、心理学では世界最大規模の国際会議です。前回は 2012 年 7 月に南アフリカのケープタウンで開催され、約 5000 名の参加者がありました。横浜では 7000 人程度の参加者を見込んでいます。IUPsyS には、世界約 80 ヶ国・地域を代表する学会、もしくは学会連合が加盟しています。ヨーロッパや南米などの地域の連合体も準会員として加盟しており、アジアからは、東南アジアの心理学会の連合体である ASEAN 心理学会連合 (ASEAN Regional Union

of Psychological Societies : ARUPS) が準会員として加盟しています。

ICP2016 は、横浜の「みなとみらい」という地区にある、パシフィコ横浜で開かれます。「みなとみらい」は、もともと造船所やふ頭があった地区を再開発した地区で、現在では、ホテル、ショッピングセンターをはじめ、美術館まであり、これが日本なのかと思わせるほどの未来都市的な景観を持つ場所です。ICP2016 では、多くの招待講演、シンポジウムが企画されています。また、組織委員会企画のシンポジウムとして、地震・津波などの災害関連、神経科学と心理学、進化心理学、法と心理、ICT とメディアアート関連、高齢化社会といったテーマのシンポジウムも企画されています。もちろん、口頭、ポスターによる一般発表もあります。一般発表に関しては、トピックカテゴリーリストというものが用意されており、それにしたがっ



写真 1 「みなとみらい」とパシフィコ横浜

てアブストラクトを提出していただくことになります。トピックカテゴリーを選ぶにあたっては、国内・国外、さまざまな人がさまざまな意見を述べ立ててくるので、プログラム委員の苦勞はたいへんなものでした。トピックカテゴリーリスト、受付時期を含む投稿方法は、近々、セカンドアナウンスメントとして発表され、ウェブでも公開される予定です。ICP2016のウェブサイトのURLを文末に記しておきます。

## ICPの歴史

第1回のICPは1889年、パリ万国博の年にパリで開催され、横浜は第31回の大会になります。参加国数も第1回は21カ国でしたが、前々回のベルリンでは110カ国からの参加がありました。参加者数も、第1回は約200名でしたが、ベルリンでは1万人を超したといわれています。ICPは発足当初は、IUPsySが西ヨーロッパ中心の連合体であったこともあり、第8回(1926)の大会までは全て西ヨーロッパで開催されており、アメリカ、ニューヘイブンで開催された第9回(1929)大会が、西ヨーロッパ以外での初めての大会でした。1972年に東京で開催された第20回大会がアジアでは初めての大会で、第28回(2004)の北京がこれに続きます。

このように日本での開催は2度目になるわけですが、これまで2回以上開催した国を見ると、イギリス、スウェーデン、カナダ、ベルギー、ドイツの5カ国であり、これに今回、日本も加わるわけで、この事実だけを見ると、日本もたいしたものじゃないかということになります。開催国の決定は、四年前のICP、もしくは六年前のICAP(国際応用心理学会議)でIUPsyS理事の投票によって行われます。今回の場合、2010年、メルボルンで開催されたICAPの場で日本が開催権を獲得しました。理事会の場で、開催を希望する数カ国がプレゼンテーションを行い、その後、投票が行われます。開催希望国は、期間中にパーティーを開いたり、さまざまな形で各国の理事に支持を訴えたり、オリンピックの開催権を争う、IOC理事会を彷彿



写真2 ICP2012 閉会式での、ICP2016 繁樹組織委員会委員長と、ICP2012 サス・クーパー会長。ここで、ICP開催の責任が引き継がれました。

とさせる光景が繰り返されます。今回の場合、日本心理学会を中心に招致委員会が作られ、委員諸氏の活躍の結果、開催権を獲得するに至ったわけです。

## IUPsySについて

IUPsySとは、前述のとおり、世界約80カ国・地域を代表する心理学会の連合体です。この組織は、第1回のパリ大会の際に、大会の継続的發展のために組織され、1965年には、現在の国際心理科学連合の名称となりました。創設時の会員国は、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、ベルギー、スウェーデン、ノルウェー、スイス、イタリア、アメリカ、日本の11カ国でした。現在、ICP2016組織委員会委員長の繁樹算男氏が理事を務めています。



写真3 IUPsyS理事会でのYokohama大会の紹介

## ICP2016 の意義

前回、1972 年は、日本がようやく「戦後」を脱却し、あらゆる意味で世界に羽ばたこうという時期でした。そうしたことを考えると、前回の ICP の意義は、極端に言えば「日本にも心理学があるんだ！」と、日本の心理学の存在を世界に示し、また、日本人側からみれば、「多くの一流の世界の心理学者が来てくれて、その顔、声を直接見聞き出来る」（今田、2012）ということでしょう。では、今回、日本で ICP を開催する目的は何なのでしょう。「世界の有名人を直接見聞きできる」というのは、主目的ではないでしょう。当時と違い、今では、大学院生が海外の学会で発表する機会も多くなっていますし、多くの国内学会で海外の心理学者の講演が催されています。ICP は、日本ではかなり人気のある学会で、毎回、多くの日本からの参加者があります。2000 年のストックホルム、2004 年の北京では、日本からの参加者数はホスト国に次いで 2 位となっています。前々回のベルリンでは第 4 位に落ちてしまいましたが、2 位のアメリカ、3 位の中国、4 位の日本はほとんど差がありませんでした。

1972 年から比べると、日本の心理学は大学の場においても大発展を遂げています。1972 年当時、私は大学 2 年生でしたが、その頃、心理学が学べる大学数はかなり限られていた記憶があります。心理学が学べる大学院がある大学は、もっと限られていました。その後、少なくとも大学教育における心理学は大発展を遂げ、今では、多くの大学に心理の大学院があり、また、心理学部がある大学も相当な数に達しています。それに比例して心理学者の数も激増し、1972 年に 3000 人弱だった日本心理学会の会員数が、現在では 8000 人弱。約 2.7 倍に達しています。1972 年以降、学会数も激増し、現在、心理諸学会連合に加盟している学会は 40 を超えています。

これは、あくまで私見ですが、日本の心理学は、国内的には大発展を遂げ、また、国際的なプレゼンスも大きく伸びてきていますが、その実力が世界から認められる段階には達していな

いと思います。そうした日本の心理学の力を世界に示し、世界的に可視化する機会として ICP2016 の意義があるのではないかと思います。これは、単に日本の心理学だけの問題ではなく、アジア全体の問題でもあると思います。アジアの心理学は、世界的にみてあまり可視化されているとはいえません。日本にいるわれわれすら、欧米ばかりに目が向き、他のアジア諸国の心理学についてはほとんど知らないのが現状ではないでしょうか。ICP2016 では、多くのアジアからの参加者を集める努力をしています。アジア諸国からの参加には参加費を軽減したり、若い参加者にはさまざまな援助を考えています。アジアの心理学の発展の踏み台として、また、日本とアジアの心理学の交流の場として ICP2016 が有効な機会になればと考えています。

## ICP2016 のプロモーション活動

ICP の準備活動として、重要なこととして、世界中の、また国内の心理学関係者に ICP の存在を、またどのような内容の国際会議であるかを知っていただくためのプロモーション活動があります。国際的なプロモーション活動は一昨年夏の夏、ケープタウンで開催された ICP2012 からスタートしています。



写真 4 ICP2012 展示会場での、ICP2016 広報ブース

ICP2012 では、次回開催に関する打ち合わせなども行われましたので、組織委員会からも何名かの委員が出向き、また、日心会員の一般参加者からも多くの方の手助けを受け、展示コーナーの一等地にブースを設け、大々的に ICP2016 のプロモーション活動を行いました。

その後、アメリカのフロリダ州オーランドで行われたアメリカ心理学会（APA）の大会、さらに、9月にマレーシアのコタキナバルで開催された東南アジア心理学会、また昨年4月に英国ハロギットで開催された英国心理学会（BPS）大会、7月、スウェーデンのストックホルムでのヨーロッパ心理学会（ECP）、8月、韓国のテジュンでの韓国心理学会等で広報活動を行いました。開催が近づくにしたがって、こうした活動をますます強化していく必要があります。組織委員会から多くの人員を派遣するのは難しいので、日本からそうした学会に参加される方々の応援を切にお願いするところです。



写真5 ヨーロッパ心理学会（ストックホルム）でのICP2016 広報ブース

昨夏のECP（ストックホルム）では、事前にメールで日本からの参加者の方々にプロモーション活動への参加をお願いしたうえで、私が一人で出向いたところ、数十名の方々が参加してくださって、大々的な活動を展開することができました。こうした大きな学会だけでなく、分野ごとの比較的小さな学会でも、ポスターの片隅にICPのポスターを貼っていただくとか、チラシを配布していただくとか、講演のパワポの最後のページにICPの宣伝を入れていただき、質疑応答の間出して置く、等の宣伝活動を行っていただくと非常に助かります。ポスターは、大判のものだけではなく、A4、葉書大、名刺大のものがあります。日心の事務局にご連絡いただければ、必要枚数をお送りします。また、ICP2016に関するご意見がありましたら、是非、組織委員会までお寄せください。



写真6 ヨーロッパ心理学会 ICP2016 ブースで友好協定にサインする、ラース・アーリン/スウェーデン心理学会会長と筆者（佐藤隆夫）

### ICP2016 の成功のために

1972年の時は、初めての国際会議ということで、日本中の心理学者が結束し、史上最高のICPといわれる会議を実現しました。今回の、ICP2016も、同じような心意気でみんなが楽しめる愉快的な会議にしていきたいと思います！ICP2016の成功は、今この記事を読んでいる、あなたの参加にかかっています。会議に参加し、発表をしていただくことはもちろん、上に書いたような形でプロモーションや企画・運営にも参加していただくと大助かりです。



写真7 昨年のAPA大会（ホノルル）では、APAスタッフの皆さんが宣伝活動をしてくださいました。

### 付 記

#### ICP2016 関連アドレス

ホームページ <http://www.icp2016.jp>

Eメール [info@icp2016.jp](mailto:info@icp2016.jp)

フェイスブック <https://www.facebook.com/ICP2016>

本稿の執筆にあたり、今田寛（2012）国際心理科学連合と国際心理学会、『動物心理学研究』62, 173-178.を参照しました。